

大阪経済法科大学における 外国人留学生に対する日本語教育

呉 満*・田嶋香織**

I. はじめに

1983年、政府が「十万人留学生受け入れ計画」を打ち出し、積極的に海外からの留学生を受け入れ始めて以来、日本の大学機関で学ぶ留学生の数は飛躍的に伸びてきた。特に中国、韓国などアジア圏からの留学生総数の増加は著しい。日本の経済発展に陰りが見えた90年代以降も、日本の漫画・アニメ文化への世界的な関心は高まっており、海外における日本語教育の広がりが、これから先の学習目的での渡日を果たす外国人留学生数の更なる増加を予感させる。18歳人口が1992年度の205万人をピークとして減少し続けている日本では、各大学機関において全学生に占める留学生数の割合が増えていくことは容易に推測しうる。こうした状況の中、留学生を対象にした教科の考察と、留学生を魅了するよりよい学習環境を目指すことは、有意義な活動と言えるであろう。

本学では1990年より、正規の科目として日本語科目を設置し、日本語教育を実施してきた。以来、留学生へのより望ましい日本語教育を目指すため、様々な努力、および、学校機関内での調査が行われてきた。以下、それらの現況を述べておきたい。

まず、本学における留学生科目の内容について述べると、大別して次の三種になる。即ち、

- ① 選択必修外国語科目；「日本語Ⅰ」（配当年次1・2・3・4）、「日本語Ⅱ」（配当年次1・2・3・4）。以上の科目は2単位。
- ② 選択外国語科目；「日本語会話」（配当年次2・3・4）、「日本語表現」（配当年次2・3・4）。以上の科目は1単位。

- ③ 日本語事情に関する科目；1)「古代・中近世の日本文化と歴史」、「近現代の日本文化と歴史」（人文分野）。「日本の社会」、「日本事情入門」（社会分野）。「日本の科学技術」、「日本の産業」（自然分野）。但し、上記の中、(人文分野2科目)と(社会分野)の「日本の社会」は2007年度から廃止科目となっている。

次に、2009年度の私費留学生（学部・学年・国籍別）現況を表に纏めると次の通りである。

所 属	在籍数	中国	台湾	韓国	ミャンマー	合 計
一回生 経済	83	12	0	1	0	13
二回生 経済		11	0	1	0	12
三回生 経済		36	0	1	1	38
四回生 経済		18	1	1	0	20
一回生 法学	12	0	0	0	0	0
二回生 法学		1	0	0	0	1
三回生 法学		7	0	1	0	8
四回生 法学		2	0	1	0	3
合 計	95	87	1	6	1	95

本稿は、これまでの調査に引き続き、本学に在学している留学生を対象に行った調査結果をまとめたものである。調査結果を踏まえ、今後の本学における留学生の日本語学習に役立てていきたい。

この調査は、2009年度春・秋学期開講の留学生科目「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語表現」「日本語会話」を履修している留学生を対象に行った。調査対象数32は、この4科目の履修者総数とは異なるが、これは同一の学生が複数クラスを履修しているからである。調査では、35問の設問で構成されたアンケートを32名の本学留学生に実施し、その結果を基に留学生の実態と日本語教育について考察した。この32問の設問事項は7種の分野に分けられる。

1. 留学生個人についての身上（性別、年齢、住所、学習

2. 日本語に対するイメージ
3. 日本語の文字（ひらがな、カタカナ、漢字）に対する意識
4. 留学生の出身地と日本との関係（渡日歴、渡日目的、対日本人関係、学習目的）
5. 日本語学習（教材、教師像、満足度）と日本に対する一般的知識
6. 漢字の読みと日本に対する理解度

* 大阪経済法科大学教養部教授（「日本語教育研究会」代表）

** 大阪経済法科大学教養部非専任講師（「日本語Ⅰ・Ⅱ」「日本語表現」「日本語会話」担当）

Ⅱ. 設問と調査結果の概要

Q1 あなたの性別は？

調査対象者の性別

	「日本語Ⅱ」受講生	%
男	10	31.3
女	22	68.8
合計	32	100.0

調査対象 32 名のうち、女子学生数（22 名 68.8%）は男子学生数（10 名 31.3%）の二倍強である。語学を専攻する学生に女子学生が多いのは珍しいことではないが、男子学生の多い本学では、この様な男女比で構成されている授業は稀なのではないだろうか。

後にも述べるが、現在の日本語学習状況に満足していない留学生が挙げる理由の一つが「日本人との交流が少ない」である。日本人学生に囲まれて過ごす本学での留学生活の中で、日本人学生との交流の機会が持てずにいる理由の一つには、この性別による要因もあるのではないだろうか。異性の学生に気軽に

話しかけることに抵抗のある学生も多いように見受けられる。

Q 2 あなたの国籍は？

調査対象の留学生 32 名のうち、中国からの学生が圧倒的に多く 21 名 (65.6%) であった。次いで韓国が 3 名 (9.4%)、ベトナム 2 名 (6.3%) が続き、後は、フィリピン、タイ、モンゴル、インド、ロシアからの交換留学生が 1 名ずつである。授業内では時に中国語が聞かれることもあるが、中国語圏以外の学生が共通言語として英語を使用することもある。授業内でのペアワークやグループディスカッションを行う際は、他の国の学生が一つのグループに一人は入るように計らい、共通言語が日本語となるようにしている。母国語を共通言語に持つ者との活動を好む傾向が見られるものの、一度同じグループ内に母国語を異にするメンバーが入れば、全体的にお互い協力しあい、好ましい友好的な関係を築いている様子が見受けられる。

Q 3 あなたの年齢は？

調査対象者の年齢別構成

年齢	人数	%	年齢	人数	%	年齢	人数	%
18	0	0	23	1	3.1	28	0	0.0
19	1	3.1	24	2	6.3	29	0	0.0
20	5	15.6	25	1	3.1	30	0	0.0
21	7	21.9	26	1	3.1	31	0	0.0
22	12	37.5	27	1	3.1	32	0	0.0

調査対象の多くが交換留学生であるため、年齢群は 20 歳から 22 歳に集中した。この群に属する学生の多くは、本国の大学、高校で日本語の授業を履修し、本学へは交換留学生として 2 学期間、あるいは 1 学期間日本に滞在しているようである。中には母国で大学を卒業した後、日本語学校等で日本語を習

得して本学に入学を果たした者もいるが、そういった学生は少数派である。

Q 4 あなたの今住んでいるところは？

アパート・マンションに住む 4 名（12.5%）の学生を除き、27 名（84.4%）の学生が大学の寮に住んでいる。男子留学生は近鉄の奈良線東花園駅近辺、女子学生は近鉄大阪線布施駅近辺の寮に入居している。大学の行き帰りを始め日々の生活の多くの時間を留学生仲間と過ごし、日本人との交流があまりないという学生も少なくないようである。クラブ、サークル、ボランティア活動、アルバイト等を通して、日本での経験をより豊かにしてくれる場を模索している様子も見られる。

Q 5 あなたはどのくらい日本語を勉強しましたか。

調査対象者の日本語学習歴

	① 1 年未満	② 1 年から 2 年	③ 2 年から 3 年	④ 3 年以上
人数	6	6	14	6
%	18.8	18.8	43.8	18.8

この設問は、留学生の本学入学以前の日本語学習歴を問うのがねらいである。20 名(62.5%)の学生が 2 年以上と回答している。学習機関によって学習内容、進度に違いがあり、学習者の習熟度と学習期間は正確に比例しているとは言えないだろうが、2 年以上学習した日本語学習者であれば、日常会話に困ることはないであろう。3 年以上学習した者であれば、日本語能力検定試験 1 級に合格し、専門的な内容に関しても深く理解できるものも少なくないであろう。こうした学生には、本学で専門的な知識を学ぶに際し、より深い理解ができるよう、上級レベル日本語の習得を目指す授業を提供したいものである。

一方、日本語学習歴が 2 年以下の者も 12 名（37.5%）いる。学習機関にもよるが、2 年以下の学習歴では、日本語でコミュニケーションを取るのに困難を感じている学習者もいることであろう。学習歴 1 年以下の学生においては、

本学に入学して初めて日本語に触れた者もいる。1年以下の学生の中には、今回実施したアンケートの内容が理解できない者もあり、他の学生の手を借りて回答していたようである。

こうした日本語初心者と先に述べた日本語学習歴の比較的長い学生の日本語習熟レベルにはかなりの差があり、共通の教材を使つての日本語学習は難しいと思われる。

Q6 あなたは今まで日本語をどこで学びましたか？（いくつでも選んでください。）

調査対象者の日本語学習機関

	高校	大学	日本語学校	その他
人数	3	21	10	4
%	9.4	65.6	31.3	12.5

この設問は設問5をさらに具体的に問うている。本学の留学生の大半は20代前半であり、多くの学生が高等学校卒業後、時を置かず来日している。設問5の日本語学習期間の回答から、彼らにとっての日本語を習得した機関は高等学校、または大学なのではないかと推測したところ、果たして結果はそれを裏付けるものとなった。大学で学習した者が21名（65.6%）と最も多かった。また、日本語学校で学んだ者10名（31.3%）おり、中には「独学」（1名 3.1%）との回答もあった。

Q7 あなたは日本語をどのように思いますか。

Q8 「好きである」と答えた人は、特に日本語のどの活動が好きですか。

Q9 読み書きについてお聞きします。「好きである」と答えた人は次の1から3のうち、どれが好きですか？（いくつでも選んでください）

日本語に対するイメージ（すき・きらい）

	すきである	きらいである	どちらともいえない
人数	24 (① 12 ② 5 ③ 7 ④ 5) (⑦ 8 ⑧ 1 ⑨ 20)	0	8
%	75.0 (① 37.5 ② 15.6 ③ 21.9 ④ 15.6) (⑦ 25.0 ⑧ 3.1 ⑨ 62.5)	0	25.0

- ① 話すのが好き ② 読むのが好き ③ 聞くのが好き ④ 書くのが好き
⑦ ひらがなが好き ⑧ カタカナが好き ⑨ 漢字が好き

設問 7 から設問 9 は本学留学生の日本語に対する主観的な好き、嫌いを尋ねたものである。24 名（75.0%）の学生が「すきである」と回答している。これ日本語授業内での学生の学習態度からも窺える。多くの学生は新しい表現、語彙を学ぶことに熱心で、授業内での発言も積極的に行っている。留学生の日本語学習歴、学習目的、習熟レベルはそれぞれ違うが、多くの学生が日本語上達のための努力をしている。

一方、8 名（25.0%）の学生が「どちらともいえない」と回答している。「きらいである」との回答は 0 であった。

語学習得には機械的な繰り返しの練習等、単純活動も少なくない。暗記等、地道な努力が必要である。日本語学習も例外ではないが、多くの学生が日本語に好意的なイメージを持ち、日本語習得に取り組んでいる。彼らの本学への留学が有意義なものとなるよう、効果的に日本語が上達するよう授業に工夫をこらすべきだと思う。

Q 10 「きらいである」と答えた人は、日本語のどの活動がきらいですか？

Q 11 読み書きについてお聞きます。「きらいである」と答えた人は、日本語のどの活動がきらいですか？

設問 10 から設問 11 は、日本語が「きらいである」と回答した学生への設問であるが、この設問への回答数は 0 であったため省略する。

Q 12 あなたは日本語に対してどのようなイメージを持っていますか。次のよいイメージ（左欄）と悪いイメージ（右欄）の五段階の評価の中から適当だと思われるところに〇印をつけてください。

やわらかい		どちらともいえない		かたい
10名 (31.3%)	1名 (3.1%)	12名 (37.5%)	1名 (3.1%)	2名 (6.3%)
やさしい		どちらともいえない		きつい
11名 (34.4%)	4名 (12.5%)	7名 (21.9%)	2名 (6.3%)	1名 (3.1%)
かるやか		どちらともいえない		おもくるしい
3名 (9.4%)	1名 (3.1%)	15名 (46.9%)	3名 (9.4%)	3名 (9.4%)
聞きやすい		どちらともいえない		聞きにくい
4名 (12.5%)	3名 (9.4%)	10名 (31.3%)	6名 (18.8%)	6名 (18.8%)
発音しやすい		どちらともいえない		発音しにくい
9名 (28.1%)	5名 (15.6%)	6名 (18.8%)	4名 (12.5%)	2名 (6.3%)
書きやすい		どちらともいえない		書きにくい
9名 (28.1%)	6名 (18.8%)	7名 (21.9%)	1名 (3.1%)	4名 (12.5%)

設問 12 では、設問 8 から設問 11 までの主観的な好き嫌いを掘り下げ、日本語の音、字形に関してのイメージを五段階評価にした。

学生の日本語に対するイメージには個人差があるが、調査結果から日本語に対する留学生の全体的なイメージを推測することができる。本学留学生は、日本語が「かたい」と感じる（1名 3.1%）よりは「やわらかい」と感じる（10名 31.3%）傾向があり、「きつい」（1名 3.1%）よりは「やさしい」（11名 34.4%）と捉えている学生のほうが多い。「かるやか」とも「おもくるしい」とも言えないと回答した学生は 15 名（46.9%）である。また聞きやすさに関しては、「どちらともいえない」と回答した学生が 10 名（31.3%）であったが、発音に関しては「発音しやすい」が 9 名（28.1%）、また日本語を「書きやすい」と感じている学生が 9 名（28.1%）と、自分から発信する活動に関しては困難に感じていない学生が少なくなかった。

この設問は主観的なイメージを問うているため、アンケート結果は年度によって一貫しているわけではない。聞く、話す、書く活動に関して、否定的な

回答が多いこともあるが、本年度の留学生は日本語に関して「良い」イメージを抱いている者が多いようである。

Q 13 「ひらがな」についてあなたはどのように考えていますか？

「ひらがな」についての考え

内 容	人数 (%)
1. 書きやすい	24 (75.0)
2. 書きにくい	1 (3.1)
3. 読みやすい	14 (43.8)
4. 読みにくい	1 (3.1)
5. どちらとも言えない	2 (6.3)

ここまで日本語全般について尋ねていたイメージを、設問 13 から設問 17 までは、ひらがな・カタカナ・漢字に分けて具体的に尋ねたものである。

設問 13 では、「ひらがな」について尋ねた。24 名 (75%) の学生が「書きやすい」、また、14 名 (43.8%) の学生が「読みやすい」と回答している。全体的に「ひらがな」に関しては不得手に感じていない学生が大半のようである。漢字、ハングル等と比べ字画が少なく、また形が似た文字のあるカタカナと比べ個々の文字が認識しやすい「ひらがな」に関しては、書きやすく、読みやすいと感じているのであろう。ただ、この調査の最後にある「漢字」の読みを問う設問では、促音、拗音、濁音など、しばしば不正確さが見られた。学生が間違いに気付かないことも多く、指導において注意が必要である。

日本留学まで日本語学習経験のなかった学生 1 名 (3.1%) は、ひらがなを「書きにくい」「読みにくい」と回答している。授業内での教材にあるひらがなにもローマ字で「振り仮名」を書き込んでいる様子が見られる。この学生のようなケースは稀であるが、読み書きを不得手とする学生は少なくない。それぞれのレベルにあった個々の学生への指導が必要であろう。

Q 14 「カタカナ」についてあなたはどのように考えていますか。

「カタカナ」についての考え

内 容	人数 (%)
1. 書きやすい	11 (34.4)
2. 書きにくい	8 (25.0)
3. 読みやすい	2 (6.3)
4. 読みにくい	12 (37.5)
5. どちらとも言えない	2 (6.3)

設問 14 では、設問 13 の「ひらがな」と同様、「カタカナ」について具体的に尋ねている。「カタカナ」は「ひらがな」と同様、字画も少なく、判別しやすいように思われる。しかし「書きやすい」（11 名 34.4%）、「読みやすい」（2 名 6.3%）と回答した学生は大きく減り、「書きにくい」（8 名 25.0%）、「読みにくい」（12 名 37.5%）との回答が増えた。「ひらがな」に比べ使用頻度が少ないせいであろうか。また、「カタカナ」は外来語、特に、英語からの言葉を表していることが多いため、英語に慣れ親しんでいない学生にとっては、文字として識別できても意味が理解できないことも多々あるようである。英語圏からのカタカナの語彙が急速に増えている現在、今まで以上に積極的にカタカナ語を目にする機会を増やし、慣れ親しむ必要があると言える。また日本の漫画文化に触れる留学生も多いが、漫画の中で頻繁に使用される擬音語、擬態語に興味があるようである。外来語の学習だけではなく、擬音語、擬態語の習得も兼ねて、上級日本語の授業でもカタカナ学習を取り入れるべきかもしれない。

Q 15 「漢字」についてあなたはどのように考えていますか？

「漢字」についての考え

内 容	人数 (%)
1. 書きやすい	15 (46.9)
2. 書きにくい	9 (28.1)
3. 読みやすい	5 (15.6)
4. 読みにくい	12 (37.5)
5. どちらとも言えない	2 (6.3)

「ひらがな」、「カタカナ」に続き、「漢字」についても具体的なイメージを尋ねた。

中国、韓国などの漢字文化圏出身の留学生が大半である本学の留学生にとって、果たして漢字は日本語学習において得意とする分野になっているのだろうか。結果は、「書きやすい」と回答した学生は、カタカナについての回答よりも多く 15 名 (46.9%) であった。しかし、読みに関しては「読みやすい」との回答が 5 名 (15.6%)、「読みにくい」が 12 名 (37.5%) である。初級、中級程度の日本語レベルの学生であっても、漢字文化圏の学生であれば、授業で使われる教材の内容については、漢字語彙から大意を掴むことは難しくないようである。しかし、これらの漢字語彙を「音読み」、「訓読み」を判別し、正しく読むとなると、漢字文化圏の学生にとっても易しいわけではないようだ。非漢字圏出身の学生の多くは漢字を「書きにくい」(9 名 28.1%)、「読みにくい」(11 名)と感じているようである。彼らにとっては、漢字を一から学習し、自分の言葉として書き連ねられるようになるまでには、並々ならぬ努力が必要なのであろう。

Q 16 「漢字」の読み方について、あなたはどのように考えていますか？

「漢字」の読みについての考え

内 容	人数 (%)
1. 音読み・訓読みの区別がむずかしい	16 (50.0)
2. 音読み・訓読みの区別が日本語を豊かにしている	10 (31.3)
3. そんなことはわからない	4 (12.5)
合計 (%)	30 (93.8)

日本の漢字の読みには、音読み（中国から伝えられた読み方を元にした読み方）と訓読み（漢字が日本に伝わる以前に使用していた和語を、同じ意味の漢字に当てたもの）の二通りに加え、漢字熟語には重箱読み（音読み+訓読み）と湯桶読み（訓読み+音読み）がある。送り仮名の付け方にも規則があり、また例外もかなりある。日本語を母語とする者にとっても漢字の読みを知り、運用できるようになるには長時間の学習を要する。ましてや留学生においては、読みの規則を理解し、自分の言葉として使えるようになるのは大変なことであろう。

調査結果は以上のことを如実に示している。音読み・訓読みの区別が難しいとの答えが16名（50.0%）にものぼった。中国から輸入された漢字のみならず、日本語特有の言葉を表すために作られた日本独自の国字（和字）の様に原則として訓読みしかない漢字があれば、またそれが中国に逆輸入されたものなど、日本語の漢字に関して、音読み、訓読みの区別の理解には漢字についての深い知識が必要とされる。日本語習熟レベルに差がある学生に共通の漢字学習は難しいが、それぞれのレベルに応じた漢字習得に重点を置いた日本語学習も必要であろう。

日本語の読みの理解の困難さを感じている留学生が多くいる中で、「音読み・訓読みの区別が日本語を豊かにしている」と感じている学生も10名（31.3%）存在する。その多くは日本語学習歴の長い日本語習熟度が高いと思われる学生である。彼らに対しても読解教材などを通して、更なる漢字学習を取り入れた授業を提供すべきであろう。

Q 17 「漢字」の字形について、あなたはどのように考えていますか？

「漢字」の字形についての考え

内 容	人数 (%)
1. 書き順がむずかしい	7 (21.9)
2. 正確にかくのがむずかしい	9 (28.1)
3. どちらともいえない	16 (50.0)
合計 (%)	32 (100.0)

この設問においては、「書き順が難しい」と感じている学生が7名(21.9%)、「正確にかくのがむずかしい」と感じている学生が9名(28.1%)であり、「どちらでもない」との回答が半数以上(16名 50.0%)であった。「読み」だけではなく、「書くこと」にも苦手意識を持っている学生もいるが、読みに比べると書きに関しては、困難を感じていない学生が少なくないようである。

Q 18 あなたの日本語の力は？ (いくつでも選んでください)

日本語能力についての自己評価

内 容	人数 (%)
1. 書くこと・話すこと・読むことがむずかしい	3 (9.4)
2. 書くことはできるが、話すこと・読むことがむずかしい	4 (12.5)
3. 話すことはできるが、書くこと・読むことがむずかしい	5 (15.6)
4. 読むことはできるが、書くこと・話すことがむずかしい	4 (12.5)
5. 初級程度(日本の小学校課程低学年)なら書くこと・話すこと・読むことができる	10 (31.3)
6. 中級程度(日本の小学校課程高学年)なら書くこと・話すこと・読むことができる	9 (28.1)
7. 上級程度(日本の中学校課程)なら書くこと・話すこと・読むことができる	4 (12.5)

この設問は、日本語を学習している調査対象者が自己の日本語能力をどのように認識しているかを尋ねたものである。そもそも外国人留学生に求められる日本語学力とはどの程度を目安とするのかは留学生を受け入れる機関により異なると思われるが、本学入学への選抜試験を通った留学生の日本語能力として

は、日常生活のレベルにおいて言語での支障がなく、生活できるのみならず、専門分野、例えば、本学での講義内容を理解し、また意思を十分表現できるだけの日本語力を期待したいところである。すなわち日本語を母語としない外国人日本語学習者を対象に実施されている「日本語能力試験」での一級レベルが理想であるが、少なくとも二級あるいはそれを目指す程度の能力は欲しいものである。

ここで日本語能力検定試験の一級、二級の認定基準を簡単に述べておく。一級では、「高度の文法・漢字（2,000字程度）・語彙（10,000語程度）を習得し、社会生活をする上で必要であるとともに、大学における学習・研究の基礎としても役立つような、総合的な日本語能力（日本語を900時間程度学習したレベル）」を認定基準としており、二級では「やや高度の文法・漢字（1,000字程度）・語彙（6,000語程度）を習得し、一般的なことがらについて、会話ができ、読み書きできる能力（日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了したレベル）」となっている。日本の国定教科書における小学校配当漢字は教育用漢字996字であることから、乱暴ではあるが、おおまかに判断すると、設問18の回答の選択肢の中では、「中級（日本の小学校課程高学年）なら書くこと・話すこと・読むことができる」が日本語能力検定試験二級に一番近いレベルであるようだ。この日本語能力以下だと自身の日本語能力を認識している学生が10名（31.3%）存在する。話す、読む、書くこと全てを「むずかしい」と感じている者から、その中の一つ、あるいは二つに関して不得手な学生もいるが、初級程度の日本語能力では、この技能のどれが欠けていても、大学機関での講義の理解は困難なのではないだろうか。上級レベルの学生の日本語のさらなる上達を目指しつつ、初級レベルの学生の基礎的な日本語習得を進める授業であれば、個々の学生の日本語能力を上げる授業を提供できるよう心がけたい。

Q19 あなたは日本語の学力をどの程度までつけたいと思いますか。

日本語学力の到達度希望

内 容	人数 (%)
1. 初級（日本の小学校課程低学年）程度	10 (31.3)
2. 中級（日本の小学校課程高学年）程度	1 (3.1)
3. 上級（日本の中学校課程）程度	2 (6.3)
3. 高級（日本の高等学校課程）程度	19 (59.4)
合計 (%)	32 (100.0)

各自が自覚する自身の日本語能力にはばらつきがあるものの、彼らが目指す日本語到達度においては、高級（日本の高等学校課程）程度が 19 名（59.4%）と圧倒的に多い。その目標を達成すべく日本への留学を果たし、日々努力している留学生の期待に沿えるよう、大学および指導者の強力な指導体制、授業内活動、教材などの工夫が必要である。個々の日本語能力の違いにも対応できるよう、指導者は一人一人への細やかな指導、柔軟な教育姿勢を心がけるべきであろう。

その一方で、初級（日本の小学校課程低学年）程度を目指す学生も 10 名（31.3%）存在する。この学生たちにとって日本語学習は、日本滞在の短期間のみの外国語学習に過ぎないのであろうか。

設問 20 から設問 22 までは主に、留学生と日本との関係について尋ねたものである。

Q20 あなたは日本での留学前に、日本に行ったことがありますか？

留学前の来日の有無

内 容	人数 (%)
1. ある	10 (31.3)
2. ない	22 (68.8)
合計 (%)	32 (100.0)

Q21 「ある」と答えた人は、何回、日本に行きましたか？

留学前の来日回数

内 容	人数 (%)
1. 1回	9 (28.1)
2. 2回	1 (3.1)
3. 3回以上	0 (0.0)
合計 (%)	10 (31.3)

Q22 日本に行った目的（内容）は何ですか。

来日前の来日目的

内 容	人数 (%)
1. 観光	9 (28.1)
2. 商用	0 (0.0)
3. 親族・友人訪問	0 (0.0)
4. その他	1 (3.1)
合計 (%)	10 (31.3)

設問 20 から設問 22 は今回の日本留学前の渡日経験について尋ねた設問である。10 名 (31.3%) が「日本を訪れたことがある」と回答している。その大半の学生の渡日目的が観光である (9 名 28.1%)。これに対し、半数以上の学生 (22 名 68.8%) は今回の留学で初来日を果たしている。日本での滞在中、国際部での行事、クラブ活動、アルバイト等、授業以外での活動にも積極的に参加して、日本人との交流の場を求めているようである。

Q23 あなたの国（母国）における日本人との関係について

母国における日本人との関係

内 容	人数 (%)
1. 日本人に会ったことがない	14 (43.8)
2. 日本人に会ったことがある	4 (12.5)
3. 日本人の友人がいる	13 (40.6)
合計 (%)	31 (96.9)

この設問は、本国における日本人との交流について尋ねたものである。17名（53.1%）の学生が今回の日本留学以前に、なんらかの形で日本人との交流を持っていたようである。日本に興味を持ち、自ら積極的に日本人との交流を求めていったのであろうか、あるいは交流を持った日本人を通して日本への興味をもつようになったのであろうか。

本国で日本人との接触のなかった者は14名（43.8%）であった。後述にもあるが、日本留学を果たした彼らの多くが、日本人と接する機会が少ないことに不満を持っている。日本語の上達もさることながら、日本人との交流は留学によって得られる貴重な経験である。習得した日本語を使う場として、日本語授業に日本人学生を招き、ディスカッションをする等、日本人との交流の場を授業で設けるべきかもしれない。

Q24 あなたの日本語学習の目的は？

留学生の日本語学習の目的

内 容	人数 (%)
1. 将来の仕事に役立つため	19 (59.4)
2. 日本の知識や技術を学ぶため	5 (15.6)
3. 日本人と交際するため	1 (3.1)
4. たんなる外国語学習のため	7 (21.9)
5. 日本の学校に進学するため	4 (12.5)
6. その他	1 (3.1)

この設問は、日本語学習の目的が一つではないためか、複数回答が見られた。最も多い回答は「将来の仕事に役立つため」（19名 59.4%）であり、学生の多くが大学卒業後の進路を見据えて日本語学習に取り組んでいることが窺われる。大学卒業を一、二年内に控えた学生は、徐々に将来の計画が具体的になっているようであり、大学院進学や就職活動に関する相談を受けることもある。将来の具体的なビジョンはまだ明確ではない大学入学間もない学生の中にも、将来何らかの形で日本と関わる仕事に就きたいと話す学生も少なくない。そういった学生は授業内の活動の中でも、特に「敬語を使つての面接練習」、「電話での応対練習」等、実生活に即した活動に興味を持って参加しているようである。

将来の仕事に役立てようと日本語を学ぶ学生がいる一方、日本語学習を「たんなる外国語学習」と捉えている学生も7名（21.9%）いる。先にも述べた、日常会話のままならない日本語初級レベルの学生にとっては、まだ自身の日本語の知識を将来の仕事につなげるには至らないのであろうか。

Q25 日本語学習はあなたの将来に役に立つと考えますか？

日本語学習は将来、役立つか

内 容	人数 (%)
1. 必ず役立つ	27 (84.4)
2. あまり期待できない	3 (9.4)
3. 役立たない	0 (0.0)
4. わからない	2 (6.3)
合計 (%)	32 (100.0)

日本語学習が「将来必ず役立つ」と回答した者が最も多く27名（84.4%）であった。

留学生の日本語習得へのモチベーションの高さが裏付けられる結果である。

ここからは本学留学生の現在の日本語学習に関しての設問である。

本学の「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語会話」「日本語表現」の授業では適宜、日本語中級から上級レベル学習者向けの教材を用い、文法、表現、単語練習、読解、作文、ディスカッション、発表などの活動を行い、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の向上を目指している。設問 26 で、日本語学習への満足度、設問 27 では満足ではない理由、設問 28 で教材に関して、設問 29 では理想の教師像について尋ねてみた。

Q 26 あなたが学んでいる日本語学習に満足していますか？

日本語学習についての満足度

内 容	人数 (%)
1. 満足している	13 (40.6)
2. 満足していない	14 (43.8)
3. わからない	5 (15.6)
合計 (%)	32 (100.0)

現在の日本語学習に満足している学生が 13 名 (40.6%) いるものの、満足していない者の数 (14 名 43.8%) はそれ以上であり、日本に来て自分の望む日本語学習状況にあると実感できていない学生も少なくないことが窺える。大学における日本語教育では、留学生が日常生活を円滑に送れるための一般的な日本語能力の向上だけではなく、大学教育を受ける上で必要な日本語運用能力、例えば、筋道を立てて論述できる能力、レポート記述の技術、専門分野での特殊な語彙の知識等の指導まで行なうべきである。しかし、先にも述べたように、留学生間の日本語能力にかなりのばらつきがあり、個々の学生のレベルに合わせた教材を用いて授業を進めていくには、限界があると言わざるを得ない。学生が喜ぶ授業、それがすなわち日本語習得に最も望ましい授業というわけではないが、彼らの日本語学習にとって有意義な授業となることを目指すために、現在の日本語学習に「満足していない」理由をさらに詳しく見ていきたい。

Q 27 「満足していない」と答えた人はどうして満足していないのですか？

なぜ日本語学習に満足していないのか

内 容	人数 (%)
1. 授業の進み方が早過ぎる	1 (3.1)
2. 授業の進み方が遅すぎる	1 (3.1)
3. 予習・復習の時間が少ない	7 (21.9)
4. 宿題が多すぎる	0 (0.0)
5. 日本人と接する機会が少ない	7 (21.9)
6. その他	2 (6.3)

「予習・復習の時間が少ない」（7名 21.9%）、「日本人と接する機会が少ない」（7名 21.9%）が、現在の日本語学習が満足できない状況にある主な理由のようである。本学で学ぶ私費留学生の多くが放課後や週末などアルバイトに精を出し、貸与される奨学金だけでは足りない学費、生活費を賄っている。法務省規定で平常時は一日4時間、休暇期間中は一日8時間以内に規定されている留学生の労働時間ではあるが、実際には多くの留学生は朝早くから、または夜遅くまでのアルバイトで、自宅学習の時間が取れず、授業時間内が唯一日本語を学習する場となっているという現状があるようである。この結果はこうした留学生の厳しい現実を示していると言えよう。アルバイトを通して、文化、習慣をも学びながら、日本語コミュニケーション能力を伸長させることも、日本での留学生活でのみ得られる貴重な体験である。大学での日本語教育ではこれらの一般的な生活レベルでの日本語能力の向上だけではなく、学部レベルでの筋道を立てて論述できる能力、レポート記述の技術等の指導まで行えるのが理想であろう。

「日本人と接する機会が少ない」という回答に関しては、日ごろの授業内でもよく聞かれる留学生のコメントである。特に日本語レベルが初級にある学生は、まだ日本人に自ら話しかけることに抵抗があるようである。その結果、留学生どおしで行動をとるにすることが多くなり、日本人との交流をよる難しい

ものになっているのではないだろうか。

他に、「授業の進みかたが早すぎる」（1名 3.1%）、「授業の進みかたが遅すぎる」（1名 3.1%）と少数ながら、本学での日本語の授業への不満の声も聞かれた。これまでの各設問で概観してきたとおり、留学生の日本語能力にかなりのばらつきがあり、それぞれのレベルにあった指導が難しいことが大きな理由の一つであろう。本国では日本の新聞記事を教材として用い、毎日かなりの量の読み書きの課題を課されて日本語能力の向上に力を注いできた学生にとって、日本語を母語としない外国人学習者向けに作成された日本語教材を使い、時間をかけてその理解を深める学習は物足りないものであるだろう。逆に、日本語学習の経験が無いに等しく、まとまった文章の読解のできない学生にとって、中級以上の日本語学習者を対象にした教材は、理解できるレベルのものではない。習熟度の違う学生が共に満足して学ぶことができる日本語指導には限界があるため、現在は中級レベルに達していない学生は、他の学生と異なる教材を用いて指導を行ない、ディスカッション等のグループワークの時のみ他の学生と同じ活動を行うようにしている。ただ、異なった活動を同時に行うと、教師のクラスコントロールが容易ではなくなるため、頻繁に行うのは良策であるとは言えない。

Q 28 あなたが学んでいる（使っている）日本語のテキスト（教材）について

日本語の教材について

内 容	人数 (%)
1. 満足している	13 (40.6)
2. 満足していない	14 (43.8)
3. わからない	5 (15.6)
合 計	32 (100.0)

本学での「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語会話」「日本語表現」の授業では

中級から中・上級、上級者向けの教材を適宜使用して、語彙、文型の練習、作文、ディスカッションの進め方などを学んできた。これまでに何度か言及したように、学生間の日本語レベルに差があり、これらの教材の対象学習者のレベルと全ての留学生の日本語レベルが一致しないこともあり、最良の教材を選ぶことは難しい。また学生が伸ばしたい技能もそれぞれ違うため、「話す、聞く、読む、書く」の四技能をバランス良く学習しなければならない。どのレベルの教材を用いる場合でも、ゴールとなる習得すべき知識や能力を何段階かに分け、どの日本語レベルにある学生でも何か習得できるよう授業計画を立てるべきであろう。

Q 29 あなたは、日本語学習の指導者（教師）に、どんな人を望みますか？（いくつでも選んでください）

日本語科目担当の教師像について

内 容	人数 (%)
1. 母国語がわからなくても日本人がよい	15 (46.9)
2. 母国の人で日本に3年以上留学経験のある人がよい	0 (0.0)
3. 日本語と母国語のできる人がよい	9 (28.1)
4. 男の人がよい	0 (0.0)
5. 女の人がよい	7 (21.9)
6. 日本の大学出身者がよい	5 (15.6)
7. 出身地、学歴、専門よりも指導者の人柄のすぐれた人がよい	9 (28.1)

この設問の結果から分かるように、日本語科目担当の教員像については、「母国語がわからなくても日本人がよい」が15名（46.9%）と圧倒的に多かった。できるだけ本当の「日本」に近い環境で学びたいという気持ちの表れであろう。その一方、母国語での説明は日本語学習者の理解に直接働きかけるという長所があり、日本語が初級レベルの学生の中には「日本語と母国語の出来る人がよい」と答えている者（9名 28.1%）も少なくない。

また、「出身地、学歴、専門性よりも人柄のすぐれた人がよい」が9名(28.1%)、「女の人が多い」が7名(21.9%)など、日本語の知識、指導力とは直接関係しない、人柄、性別に関心をもった意見も見られた。母国の家族や友人と離れた留学生活で、日本語の教員に授業の担当者としての役割だけでなく、人間的な繋がり、母親のような役割をも求めている学生がいるのであろうか。

次の設問 30 から設問 35 までは、日本に対する留学生の常識度、理解度を尋ねたものである。

Q 30 現在の日本の首相の名前は？（できれば漢字でかいてください）

このアンケートは 2009 年春学期、秋学期の二度に亘り実施された。政権は自由民主党から民主党へと変わり、政治的に大きな動きがあった一年である。春学期のアンケート実施時期は、ちょうど前総理大臣が解散を決定した直後であったため、解散から選挙までの期間も麻生太郎が首相と呼べるのかとの質問を受けることもあった。また、秋学期では「鳩山」の「鳩」の字が難しかったのか、「嶋」と混同している学生が数名見られた。結果は、春学期、秋学期では正答は異なるが、それぞれ「麻生太郎」10名(31.3%)、「鳩山由紀夫」(2名 6.3%)との完全な回答が12名(37.5%)、姓のみ「麻生」(3名 9.4%)、「鳩山」(2名 6.3%)、また平仮名での「あそうたろう」(1名 3.1%)、「はとやまゆきお」(3名 9.4%)までを正答とすれば、合わせて19名(59.4%)の正答である。日本のニュースはあまり見ないという学生が少なくないが、半数以上の学生は、ある程度の時事に関する知識はあるようである。

Q 31 日本の首都は？

この設問に関しては、29名(90.6%)と大半の学生が漢字で「東京」と回答している。非漢字圏出身の日本語初級レベルの学生が1名(3.1%)、ローマ字で「T O K Y O」と、また同じく初級レベルの学生が1名(3.1%)、平仮名で「とうきょう」と書こうとしたものの長音を間違え「ときよ」と回答していた。

Q 32 日本の総人口は？

設問 31 の正答「東京」は日々の生活の中でも頻繁に耳にする地名であるのに対し、日本の総人口は知識として学ぶ機会がない限り、正答できない設問である。これには一億二千万から一億三千万の間に回答が集中した（13名 40.6%）。設問 31 に比べ正答率は落ちるが、まずまずの正答率だと言えるのではないだろうか。また、回答の中には「125 千万」等、「億」という語彙が未習なのではないかと思われる学生の回答もあった。

Q 33 日本で一番高い山は？

この設問では「富士山」との漢字での回答が 29 名（90.6%）と、正答率が非常に高かった。残りの回答（2名 6.3%）も平仮名で「ふじ」と記している。

Q 34 日本の国花は？

日本の国花を問う設問でも正答率は高く、28 名（87.5%）が「桜」「櫻」または「さくら」と回答している。他に「菊」と回答した者が 3 名（9.4%）いた。

設問 30 から設問 34 までの結果から、留学生の日本への関心の高さを窺うことができる。日頃の学生たちとの会話でも、様々な情報源から日本に関して様々な分野の知識を貪欲に得ようとしている彼らの様子が窺える。

Q 35 次の漢字の読みをひらがなで書いてください。

漢字の読みでみる日本への理解度

語彙	正答者数 (%)	語彙	正答者数 (%)
1. 幼い	16 (50.0)	11. 刺身	23 (71.9)
2. 昆布	16 (50.0)	12. 七草	8 (25.0)
3. ご馳走	14 (43.8)	13. 竹	18 (56.3)
4. 献立	8 (25.0)	14. 鯉	10 (31.3)
5. 無事	11 (34.4)	15. 瓦	2 (6.3)

6. 二十歳	22 (68.8)	16. 江戸	17 (53.1)
7. 郵便局	26 (81.3)	17. 彼岸	6 (18.8)
8. 油	23 (71.9)	18. 時雨	4 (12.5)
9. 靴	27 (43.8)	19. 七夕	9 (28.1)
10. 土産	17 (53.1)	20. 結納	1 (3.1)

設問 35 では、比較的読みの難しい漢字語彙の読みを尋ねている。食生活、住生活に関する語彙では、「靴」(27名 43.8%)、「郵便局」(26名 81.3%)、「刺身」(23名 71.9%)、「油」(23名 71.9%)、「二十歳」(22名 68.8%)等が高い正答率であった。また、日本の伝統文化、行事に関する語彙では、「竹」(18名 56.3%)、「江戸」(17名 53.1%)、「土産」(17名 53.1%)、「幼い」(16名 50.0%)、「昆布」(16名 50.0%)の正答率が高い一方、「結納」(1名 3.1%)、「瓦」(2名 6.3%)、「時雨」(4名 12.5%)、「彼岸」(6名 18.8%)を正答する者は多くなかった。使用頻度の少ないこれらの語彙が未習の学生も少なくなく、アンケート実施後にこれらの漢字語彙の「読み」のみでなく、その意味を確認する学生も見られた。

Ⅲ. おわりに

調査対象 32 名の留学生は数名の例外を除き、大半は漢字文化圏からの留学生である。留学以前の日本語学習歴、習熟度には大きな隔たりはあるが、多くの学生が日本語に対し好ましいイメージを持ち、日々より高度な日本語習得を目指している。卒業後の進路においても、高い目標を据え、学んだ日本語の知識が将来大きく役に立つと考えている。しかし留学生活ではアルバイト等で忙しい日々を送り、日本語学習に割く時間が限られている者も多い。また、日本人との交流を持つ機会に恵まれない学生も少なくなく、せっかく日本留学を実現させたものの、現在の日本語学習状況に満足できていない学生もいる。

ところで、本学のFD・カルキュラム検討委員会報告(2010年2月10日教授会報告)によると、留学生カリキュラムについて、の中で、具体的課題と

して「意欲が高く優秀な学生を受け入れ、充実した教育とサービスを提供し、建学の理念に謳われている優秀な人材を育成する」と目標をかかげ、留学生育成教育として、1) 導入教育として日本語+日本関連教育+専門準備教育+英語教育2) 専門教育3) キャリア教育として、国内著名大学院への進学、国内就職、帰国後も活躍できる国際人材教育、を目指している。

本学では、外国人留学生も基本的には日本人学生と同等に扱っており、海外姉妹校からの交換留学生についても同様である。現状は留学生にとって語学上のハンディキャップや日本の社会・文化についての情報不足が存在しており、それに対するケアが十分とはない。この問題点は今後、さらに多くの留学生を受け入れる前提に立つ時、一層の重要性をもたらすといえよう。

今後の課題として、日本語科目の充実、特に、専門教育用語の設置、通常科目に意欲と語学力を備えた日本人学生も参加できる混合クラス科目の設置や留学生向けの演習の拡充なども考慮するのが望ましい、と思われる。

本学における留学生科目である日本語教育に関わる者としては、それぞれの学生のレベル、ニーズに合わせ、彼らの日本語上達に必要な指導を行っていきけるよう努めたく思う。今回の調査における留学生の意見、希望を貴重な意見を授業計画に反映させて、よりよい日本語教育を目指していきたい。

最後に、今回の調査に用いた「日本語学習に関する調査」アンケートを参考のために掲載する。

日本語学習に関する調査

本調査は、大阪経済法科大学における外国人留学生に対するより望ましい日本語教育に役立てるためのアンケート調査です。どうか皆様のありのままの考えや意見をお聞かせください。

なお、本調査は私どもの研究上の資料以外には利用しないことを申し添え、皆様のご協力をお願い致します。

2009年11月

〒581-0853 日本国大阪府八尾市楽音寺6-10
大阪経済法科大学教養部日本語教育研究会
TEL. 0729-41-8211

各設問の回答の中から適当と思われるものを選び、その番号を○印で囲んでください。

- Q1 あなたの性別は？ 1. 男 2. 女
- Q2 あなたの国籍は？ _____
- Q3 あなたの年齢は？ _____才
- Q4 あなたのいま住んでいるところは？
1. 寮 2. アパート・マンション 3. ホームステイ
- Q5 あなたはこれまでどのくらい日本語を学習しましたか？
1. 1年未満 2. 1年から2年 3. 2年から3年 4. 3年以上
- Q6 あなたは今まで日本語をどこで学びましたか？（いくつでも選んでくだ

かるやか	どちらともいえない	おもくるしい
聞きやすい	どちらともいえない	聞きにくい
発音しやすい	どちらともいえない	発音しにくい
書きやすい	どちらともいえない	書きにくい

Q13 「ひらがな」について、あなたはどのように考えていますか？

1. 書きやすい
2. 書きにくい
3. 読みやすい
4. 読みにくい
5. どちらとも言えない

Q14 「カタカナ」について、あなたはどのように考えていますか？

1. 書きやすい
2. 書きにくい
3. 読みやすい
4. 読みにくい
5. どちらとも言えない

Q15 「漢字」について、あなたはどのように考えていますか？

1. 書きやすい
2. 書きにくい
3. 読みやすい
4. 読みにくい
5. どちらとも言えない

Q16 「漢字」の読みかたについて、あなたはどのように考えていますか？

1. 音読み・訓読みの区別がむずかしい
2. 音読み・訓読みの区別が日本語を豊かにしている
3. そんなことはわからない

Q17 「漢字」の字形について、あなたはどのように考えていますか？

1. 書き順がむずかしい

2. 正確に書くのがむずかしい
3. どちらとも言えない

Q18 あなたの日本語の能力は？（いくつでも選んでください）

1. 書くこと・話すこと・読むことがむずかしい
2. 書くことはできるが、話すこと・読むことがむずかしい
3. 話すことはできるが、書くこと・読むことがむずかしい
4. 読むことはできるが、書くこと・話すことがむずかしい
5. 初級程度（日本の小学校課程低学年）なら書くこと・話すこと・読むことができる
6. 中級程度（日本の小学校課程高学年）なら書くこと・話すこと・読むことができる
7. 上級程度（日本の中学校課程）書くこと・話すこと・読むことができる

Q19 あなたはどの程度まで日本語の学力をつけたいと思いますか？

1. 初級（日本の小学校課程低学年）程度
2. 中級（日本の小学校課程高学年）程度
3. 上級（日本の中学校課程）程度
4. 高級（日本の高等学校課程）程度

Q20 あなたは日本での留学前に、日本に行ったことがありますか？

1. ある
2. ない

Q21 「ある」と答えた人は何回、日本に行きましたか？

1. 1回
2. 2回
3. 3回以上

Q22 日本に行った目的（内容）は何ですか？

1. 観光
2. 商用
3. 親族・知人訪問
4. その他_____

Q23 あなたの国（母国）における日本人との関係について

1. 日本人に会ったことがある

2. 日本人に会ったことがない
3. 日本人の知人がいる

Q24 あなたの日本語学習の目的は？

1. 将来の仕事に役立つため
2. 日本の技術や知識を学ぶため
3. 日本人と交際するため
4. 単なる外国語学習のため
5. 日本の学校に進学するため
6. その他_____

Q25 日本語学習はあなたの将来に役に立つと考えますか？

1. 必ず役立つ
2. あまり期待できない
3. 役立たない
4. わからない

Q26 今、あなたが学んでいる日本語学習に満足していますか？

1. 満足している
2. 満足していない
3. わからない

Q27 「満足していない」と答えた人は、なぜ満足していないのですか？

1. 授業の進みかたが早過ぎる
2. 授業の進みかたが遅すぎる
3. 予習・復習の時間が少ない
4. 宿題が多過ぎる
5. 日本人と接する機会が少ない
6. その他_____

Q28 あなたが学んでいる（使っている）日本語のテキスト（教材）について

1. 満足している
2. 満足していない
3. わからない

Q29 あなたは、日本語学習の指導者（教員）に、どんな人を望みますか？

（いくつでも選んでください）

1. 母国語がわからなくても日本人がよい
2. 母国（本国）の人で日本に3年以上留学経験のある人がよい
3. 日本語と母国語のできる人がよい
4. 男の人がよい
5. 女の人がよい
6. 日本の大学出身者がよい
7. 出身地、学歴、専門性よりも人柄のすぐれた人がよい

Q30 現在の日本の首相の名前は？（できれば漢字で書いてください）

Q31 日本の首都は？（できれば漢字で書いてください）

Q32 日本の総人口は？ 約 _____ 万人

Q33 日本でいちばん高い山は？（できれば漢字で書いてください）

Q34 日本の国花は？（できれば漢字で書いてください）

Q35 次の漢字の読みをひらがなで書いてください

大阪経済法科大学における外国人留学生に対する日本語教育（呉・田嶋）

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 幼い | 2. 昆布 | 3. ご馳走 | 4. 献立 |
| () | () | () | () |
| 5. 無事 | 6. 二十歳 | 7. 郵便局 | 8. 油 |
| () | () | () | () |
| 9. 靴 | 10. 土産 | 11. 刺身 | 12. 七草 |
| () | () | () | () |
| 13. 竹 | 14. 鯉 | 15. 瓦 | 16. 江戸 |
| () | () | () | () |
| 17. 彼岸 | 18. 時雨 | 19. 七夕 | 20. 結納 |
| () | () | () | () |

Q36 このアンケートについて何か意見がありましたら書いてください

本調査にご協力いただき、ありがとうございました。終わりに皆さまの日本語学習の更なる向上とご健勝を念じております。

